

五十肩について

五十肩とは、WHO（世界保健機構）が作成した疾病・傷害など国際疾病分類 ICD-10 の疾病分類病名ではないが、肩周囲が痛んで日常生活に支障をきたすとき、五十肩と呼称して使われる名称であり、四十肩と呼ばれることもある。中年以降に発症し、特に 50 歳代の患者が多いことから、この名称が使われる。

また、この疾患は人種に関係なく生じる疾患であり、古来よりある疾患で、江戸時代には痙癰(けんびき、けんぺき)という呼称が使われた様である。各個人によって原因や症状はさまざまだが、多くの場合、ズボンの上げ下げなどの動きや、棚の上のものを取ろうとしたりするなど生活動作の中で肩の関節を動かしたときに激しい痛みを感じる事で、診療所を受診することが多い。多少の痛みに対しては我慢強い方も、夜中に肩の痛みを感じ眠れない状態をきたすと、我慢も限界に達し、医者嫌いの方も待たなしで医療機関を受診する事になる。

国際疾病分類 ICD-10 の病名では、起こっている病態に準じて、「肩関節周囲炎」、「せっかいかけんばんえん石灰化腱板炎」、「じょうわんにとうきんちょうとうけんえん上腕二頭筋長頭腱炎」、「かたけんばんだんれつ肩腱板断裂」、「かたかんせつしんそんしょう肩関節唇損傷」、「変形性肩関節症」などの病名があるが、一般社会で呼称されている病名としては、これら肩周辺の痛みは全て五十肩、四十肩と呼び、日常生活の皆様の会話の中でも、この名称が飛び交うのである。

この痛みが発生する原因として考えられることは、加齢に伴い、肩の関節を作っている骨や軟骨、じんたい靭帯や腱などに炎症が起きることが主な原因だといわれている。その後、炎症が治まるのに合わせて痛みも軽くなるが、炎症によって肩周辺組織がゆちゃく癒着してしまうと関節の動きが悪くなることもある。

我々医師が、診断の際に最も注意を払っている事柄は、肩の痛みと
思っていたものが、^{けいつい}頸椎の病変に由来する痛みや、神経性の疾患、が
んなどの腫瘍、内臓が原因となっている関連痛など、他の病気が原因
となっている場合があり、自己診断のもと^{まんぜん}漫然と治療していること
や、我慢していて病気が進行し、治療が困難になるなど、^{なんじゅう}難渋してよ
り治療が長引き続き辛い思いをする時もあるため、速やかな専門医へ
の受診を勧めるものである。

最後に、五十肩と呼ばれる肩周辺の痛みの中で、急激に肩関節の痛
みを引き起こす代表的な疾患として「^{せつかいかけんばんえん}石灰化腱板炎」を紹介する。こ
の疾患は病名が多数存在し、「^{せつかいちんちやくせいけんばんえん}石灰沈着性腱板炎」、「^{かたせつかいせいけんえん}肩石灰性腱炎」、
「^{かつえきほうせつかいちんちやくしやう}滑液包石灰沈着症」、「^{きよくじょうきんせつかいかしやう}棘上筋石灰化症」、「^{せつかいせいけんえん}石灰
^{ちんちやくしやう}沈着症」などである。石灰沈着が起こる部位によって様々な病名が
付けられた結果である。

^{せつかいかけんばんえん}
石灰化腱板炎

写真の矢印先端部が

^{せつかいちんちやくびやうそうぶ}
石灰沈着病巣部

